

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 06-011228

(43)Date of publication of application : 21.01.1994

(51)Int.Cl.

F25D 11/02

F25C 1/10

F25C 1/22

(21)Application number : 04-170597

(71)Applicant : HITACHI LTD

(22)Date of filing : 29.06.1992

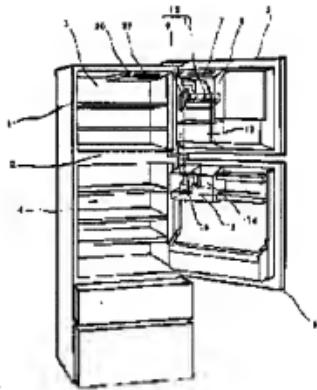
(72)Inventor : HAYASHI MASAKATSU  
SHIZUTANI MITSUTAKA  
HISATOMI RYOICHI  
YAMAZAKI SUSUMU

## (54) REFRIGERATOR WITH AUTOMATIC ICE MACHINE

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To make a refrigerator easy to use, to reduce greatly the time required for work on repair of an ice machine and to make the ice machine attachable without requiring any special means to a door of the refrigerator, with water in the ice machine prevented from scattering outside by shocks on opening and shutting of the door by a method wherein available capacities of shelves of a freezing room and a refrigeration room are enlarged.

**CONSTITUTION:** An automatic ice machine 12, composed of an ice tray 11 and a driving device 9 that turns over the ice tray 11, is provided to the hinge-side upper part of the inside of a freezing room door 5, an ice-storing box 13 is provided to its underside and a feed bottle 14 is provided to the hinge-side of the inside of a refrigeration room door 6. Then, a feed pipe with a feed pump 16 is provided to connect the automatic ice machine 12 and the feed bottle 14.



特開平6-11228

(23)公開日 平成6年(1994)1月21日

(5)Int.Cl. <sup>5</sup>	識別記号	府内整理番号	F I	技術表示箇所
F 25 D 11/02	J	8511-3L		
F 25 C 1/10	3 0 1 A	7380-3L		
1/22	3 0 2 C	7380-3L		

審査請求 未請求 請求項の数13(全 10 頁)

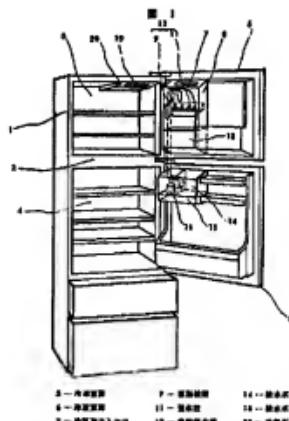
(21)出願番号	特願平4-170507	(71)出願人	000005108 株式会社日立製作所 東京都千代田区神田駿河台四丁目5番地
(22)出願日	平成4年(1992)6月29日	(72)発明者	林 政克 茨城県土浦市神立町502番地 株式会社日立製作所機械研究所内
		(72)発明者	静谷 光隆 茨城県土浦市神立町502番地 株式会社日立製作所機械研究所内
		(72)発明者	久富 良一 栃木県下都賀郡大平町富庄800番地 株式会社日立製作所木工場内
		(74)代理人	弁理士 高橋 明夫 (外1名) 是共頁に続く

## (54)【発明の名称】自動製氷機付き冷蔵庫

## (57)【要約】

【目的】冷凍室、冷蔵室の構造を広くして、冷蔵庫を使いやすくし、製氷機の修理サービス時の作業時間を大幅に短縮しうる自動製氷機付き冷蔵庫を提供する。また、扉開閉時の衝撃で製氷皿内の氷が外側に飛散するのを拘え、冷蔵庫としては特別の手段を施すことなく製氷機を扉に取付け可能とする。

【構成】冷凍室扉5のヒンジ1 8個の扉内板側の上部に、製氷皿1 1と製氷皿を回転する駆動装置9とからなる自動製氷機1 2を設置し、その下部に貯水ボトル1 3を設置し、冷蔵室扉5のヒンジ1 8個の扉内板側に給水ボトル1 4を設置するとともに、これら自動製氷機1 2と給水ボトル1 4との間に給水ポンプ1 6を具備した給水管1 7を通したことを特徴とする。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 庫内を隔壁により区画して少なくとも冷凍室、冷蔵室を有し、製氷皿と該製氷皿を回転する駆動手段とからなる製氷機と、貯水槽と、容器の水を製氷皿に給水する手段とを備えた自動製氷機付き冷蔵庫において、上記冷蔵室の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯水槽を設置し、上記冷蔵室の庫内板側に給水ボトルを設けたことを特徴とする自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項2】 庫内を隔壁により区画して少なくとも冷凍室、冷蔵室を有し、製氷皿と該製氷皿を回転する駆動手段とからなる製氷機と、貯水槽と、容器の水を製氷皿に給水する手段とを備えた自動製氷機付き冷蔵庫において、

上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯水槽を設置し、上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、

これら製氷機と給水ボトルとの間に給水ポンプを具備した給水管を通じたことを特徴とする自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項3】 給水管を冷蔵庫扉および冷凍室扉のヒンジ部内側通すようにしたことを特徴とする請求項2記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項4】 給水管を冷蔵室および冷凍室の扉に近い室内もしくは断熱壁内のいずれかを通すものとし、当該給水管における、給水ポンプから冷蔵室側給水管、冷蔵室側給水管から製氷皿を結ぶそれぞれの給水管部を柔軟性を有する部材としたことを特徴とする請求項2記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項5】 庫内を隔壁により区画して少なくとも冷凍室、冷蔵室を有し、製氷皿と該製氷皿を回転する駆動手段とからなる製氷機と、貯水槽と、容器の水を製氷皿に給水する手段とを備えた自動製氷機付き冷蔵庫において、

上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯水槽を設置し、上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、

冷蔵室にもしくは冷凍室の断熱壁内のいずれかに冷気通路となるダクトを設け、かつ、冷蔵室扉に位置し内部に製氷機を有する製氷室に開口を設け、冷蔵室扉を閉じたときに前記ダクトの一方の開口が前記製氷室の開口と連結して、前記ダクト内を流れてきた冷気が製氷室に入るよう構成したことを特徴とする自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項6】 製氷室の開口部に柔軟性を有する封止部材を設けたことを特徴とする請求項5記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項7】 製氷室の開口部に、冷気を製氷皿上面に導くダクトを設け、当該ダクトの内部に異端を密にする封止部材を柔軟性を有する部材で形成したことを特徴とする請求項5記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項8】 冷気通路となるダクトの出口を伸縮自在の部材で構成したことを特徴とする請求項5記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項9】 庫内を隔壁により区画して少なくとも冷凍室、冷蔵室を有し、製氷皿と該製氷皿を回転する駆動手段とからなる製氷機と、貯水槽と、容器の水を製氷皿に給水する手段とを備えた自動製氷機付き冷蔵庫において、

上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯水槽を設置し、上記冷蔵室の扉のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、  
製氷機の製氷皿の外周に沿う上方に延びる水飛び防止板を設け、この水飛び防止板の上部先端部に製氷皿内を導む方向のヒレを設けたことを特徴とする自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項10】 水受けが複数列形成された製氷皿の、各列の水受けの間に直立する水飛び防止板を設け、この水飛び防止板の先端部に製氷皿内を導むヒレを設けたことを特徴とする請求項9記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項11】 製氷皿の外周に沿う上方に延びる水飛び防止板の上部先端部のヒレを直線形に逆L字形ないし純角に、各列の水受けの間に直立する水飛び防止板の上部先端部のヒレをT字形に、それぞれ形成したことを特徴とする請求項9または10記載のいずれかの自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項12】 水受けが複数列形成された製氷皿の、各列の水受けの間に直立する水飛び防止板の高さが外周部の水飛び防止板の高さより高くしたことを特徴とする請求項10記載の自動製氷機付き冷蔵庫。

【請求項13】 製氷皿の回転中心を、製氷皿の横断面で、各水飛び防止板の先端および皿の水受け底の両の各点を含める最小円の中心に設けるように構成したことを特徴とする請求項9ないし12記載のいずれかの自動製氷機付き冷蔵庫。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、自動製氷機付き冷蔵庫に係り、特に、冷蔵室の扉の内板に製氷機、貯水槽を設置し、冷蔵室を広く且つ使いやすくして、冷蔵冷凍庫の利用価値を高めるとともに給水装置等のサービス性を改善するほか、製氷皿等からの水漏れ対策を行うのに好適な自動製氷機付き冷蔵庫に関するものである。

## 【0002】

【従来の技術】 従来のこの種の製氷機付き冷蔵庫を図1を参照して説明する。図1は、従来の自動製氷機付き冷蔵庫の略示断面図である。図1に示す冷蔵室構体1は、内部の仕切2の隔壁を境にして冷凍室3と冷蔵室4を区画しており、さらに、冷蔵室5、冷蔵室6は、それぞれ冷蔵室5、冷蔵室6を備えている。ここで、冷蔵室4の内部に給水ボトル14Aを設置し、給水ボト

ル1.4Aに貯蔵された水は必要に応じて給水ポンプ1.6Aにより汲み上げられて、給水管1.7Dを通り冷凍室3の内部に設置された製氷機1.2Aの製氷皿1.1Dへ往ぐように構成されている。

【0003】給水ボトル1.4Aをセットすると、水は給水ポンプ1.6Aによって汲み上げられ給水管1.7Dを介して製氷皿1.1D内へ注水される。この製氷皿1.1Dに所定量満たされた水は冷凍室3内を循環される冷気によって氷結され、駆動装置9の回転作用によって製氷皿1.1Dがひねられて離水される。離水された氷は貯氷箱1.3A内に落下し貯氷され、離水作用の終了した製氷皿1.1Dはもとの状態に戻る。以降この作用を給水ボトル1.4Aの水を使いきるまで繰り返す。なお、この種の駆動例としては、特開平2-1366561号公報記載の技術が知られている。

#### 【0004】

【発明が解決しようとする課題】従来のように、冷凍室内に自動製氷機、貯氷箱、冷蔵庫内に給水ボトルを設置した構造のものにおいては、冷凍室、冷蔵庫の最も使い易い部分である庫内の棚の部分が抜くなってしまつという問題があった。さらにこのタイプにおいては、給水管が万が一詰まつたときのパイプの交換時には冷凍室、冷蔵庫の給水管パイプ取付け部の部品をはじめ瓶頸、化粧枠を全て取り外さなければならず、給水管パイプ交換のためのサービス時間がかなり多くかかるという問題があった。

【0006】上記従来技術の問題点を解決するためになされたもので、冷凍室の棚に製氷機、貯氷箱を、冷蔵庫の棚に給水ボトルを設置して、冷凍室、冷蔵庫の棚の有効容積を広くして、冷蔵庫を使いやすくするとともに、さらには製氷機の修理サービス時に製氷機の部品を外すだけで良く、その作業時間を大幅に短縮する自動製氷機付き冷蔵庫を提供することを、その目的とするものである。また、本発明の他の目的(第二の目的)は、扉閉鎖時の衝撃で製氷皿内の水が外側に飛散するのを抑え、冷蔵庫としては特別の手段を施すことなく製氷機に棚に取付け可能とした自動製氷機付き冷蔵庫を提供することにある。

#### 【0006】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の自動製氷機付き冷蔵庫に係る最も基本的な第一の発明の構成は、庫内を隔壁により区隔して少なくとも冷凍室、冷蔵庫を有し、製氷皿と該製氷皿を回転する駆動手段とからなる製氷機と、貯氷箱と、容器の水を製氷皿に給水する手段とを備えた自動製氷機付き冷蔵庫において、上記冷凍室の庫内板側の上部に給水機、下部に貯氷箱を配置し、上記冷蔵庫の庫内板側に給水ボトルを設けたものである。

【0007】上記目的を達成するために、本発明の自動製氷機付き冷蔵庫に係る第二の発明の構成は、冷凍室の

厚のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯氷箱を設置し、上記冷蔵庫の裏のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、これら製氷機と給水ボトルとの間に給水ポンプを具備した給水管を通したものである。より詳しくは、給水管を冷蔵室裏および冷凍室の裏に近い室内もしくは断熱壁内のいずれかを通すものとし、当該給水管における、給水ポンプから冷蔵室側給水管、冷凍室側給水管から製氷皿を筋すそれぞれの給水管部を柔軟性を有する部材としたことを特徴とする。

【0008】上記目的を達成するために、本発明の自動製氷機付き冷蔵庫に係る第三の発明の構成は、冷蔵室の厚のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯氷箱を設置し、上記冷蔵庫の裏のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、冷蔵室裏もしくは冷蔵室の断熱壁内のいずれかに冷気通路となるダクトを設け、かつ、冷蔵室裏に位置し内部に製氷機を有する製氷室に開口を設け、冷蔵室裏を開じたときに前記ダクトの一の方の開口が前記製氷室の開口と連絡して、前記ダクト内を拂ってきた冷気が製氷室に入るようしたるものである。

【0009】さらに、上記第二の目的を達成するために、本発明の自動製氷機付き冷蔵庫に係る第四の発明の構成は、冷蔵室の裏のヒンジ側の庫内板側の上部に製氷機、下部に貯氷箱を設置し、上記冷蔵室の裏のヒンジ側の庫内板側に給水ボトルを設けるとともに、製氷機の製氷皿の外周に沿う上方に延びる水飛び防止板を設け、この水飛び防止板の上端先端部に製氷皿内を遮む方向のヒレを設けたものである。より詳しくは、水受けが複数列形成された製氷皿の、各列の水受けの間に直立する水飛び防止板を設け、この水飛び防止板の先端部に製氷皿内を遮むヒレを設けたものであり、各列の水受けの間の水飛び防止板の高さが外周部の水飛び防止板の高さより高く、また、製氷皿の巨輪中心を、製氷皿の横断面で、各水飛び防止板の先端および頂の水受け底の両の各点を約める最小円の中心に設けるように構成したことを特徴とする。

#### 【0010】

【作用】上記の技術的手段により、冷凍室、冷蔵庫から47 製氷機関部部品を除去し、庫内を広く使えるようにした。特に、第二の発明の構成によれば、冷凍室の庫内板側に製氷機と貯氷箱、冷蔵室の庫内板側に給水ボトルを設け、給水ボトルから製氷機へ給水する給水管を冷蔵室裏および冷蔵室裏のヒンジ部内およびその近傍を通す構造によりにより、給水管路の短縮化を可能とし、給水管交換サービスを容易にしている。

【0011】また、第三の発明の構成によれば、冷凍室内もしくは冷蔵室の断熱壁内に冷気通路となるダクトを設け、かつ、冷蔵室裏に位置し内部に製氷機を有する製氷室に開口を設け、冷蔵室裏を開じたときに前記ダクト

の一方の開口が前記製氷室の開口と連絡して、前記ダクト内を流れてきた冷気が製氷室に入るようにならうので、製氷室内部の水に冷気が良き当たるようになり、製氷機が裏に設置されても製氷能力を維持できるようになってい

る。

【0012】さらに、第四の発明の構成によれば、製氷機を裏のヒンジ側に設置したことにより、冷凍室の扉閉鎖時に生じる製氷機の製氷室内部の水への慣性力を小さくし、水飛び防止板を設けて、冷凍室の扉閉鎖時に生じる製氷室内部の水の慣性力による水こぼれや水飛びを防止することをより一層確実に行うようしている。特に、水受けを複数列有する製氷室において、製氷室の外周部および各列の水受けの間に直立する水飛び防止板を設け、かつ、各列の水受けの間の水飛び防止板の高さを外周部の水飛び防止板の高さより高くした構造にすることにより、離水時の水が確実に貯蔵槽に落するようになっている。また、製氷室の扉閉鎖中心を、製氷室の横断面で、各水飛び防止板の先端および扉の水受け底の各点を約等間隔に内側に設ける構造にすることにより、製氷機の薄形化を行なっている。

### 【0013】

【実施例】以下、本発明の各実施例を図1ないし図13を参照して説明する。

【実施例 1】まず、本発明の一実施例を図1ないし図3を参照して説明する。図1は、本発明の一実施例に係る自動製氷機付帯冷蔵庫の斜視図、図2は、冷蔵庫扉のヒンジ部の断面図、図3は、本実施例における製氷室の断面図である。図1に示す冷蔵庫扉1は、内部の仕切2の隔壁を奥にして冷凍室3と冷蔵室4を区別しており、さらに、冷凍室3、冷蔵室4は、それぞれ冷凍室扉5、冷蔵室扉6を備えている。

【0014】冷凍室扉5の扉内板側における、ヒンジ側の上部に製氷室8、その下部に貯氷槽13が設置されている。製氷室8は、開口に係る冷気取り入れ口7を有し、製氷室8内には、製氷室1と隣接氷室11を回転する駆動装置9からなる自動製氷機12が配置されている。駆動装置9は、モータ、減速機等を内蔵しており、製氷室11は図3に示す如く水飛び防止板10a、10bを形成している。

【0015】冷蔵室扉6の扉内板側における、ヒンジ側に給水ボトル14が取付けられている。この給水ボトル14の下部に給水ボトル14から常に一定量の水を受けて蓄めておく定置量15が配置されている。また、その近傍に給水ポンプ16が配置され、自動製氷機12と給水ボトル14との間に給水管17が配管されている。この給水管17は、図2に示すように、給水ポンプ16から冷蔵室扉5、冷蔵室扉6を支えるヒンジ18の奥19内を通って製氷室11に面する位置に設置されている。また、冷蔵室3の内壁面上に冷蔵室扉(図示せず)からの冷気を製氷室8へ送る冷気ダクト20を設け、その出口2

9が製氷室8の冷気取り入れ口7に対向するように構成されている。

【0016】自動製氷機12における製氷室11は、水受け21が複数列(図3の例では2列)形成されたもので、外周に沿う上方に並びる水飛び防止板10aを設け、この水飛び防止板10aの上部先端部に製氷室内部を臨む方向のヒレ22aを設けている。また、各列の水受け21の間に直立する水飛び防止板10bを設け、この水飛び防止板10bの先端部に製氷室内部を臨む方向のヒレ22bを設けている。ここで、水受け21の間に水飛び防止板10bの高さは製氷室11外周部の水飛び防止板10aの高さより高く形成されている。また、水飛び防止板10a、10bは、シリコングムやテフロン等のように比較的柔らかく、表面に水滴が付着にくく、かつ離水性の良い材料からなるものである。

【0017】このような自動製氷機付帯冷蔵庫の製氷作用について説明する。給水ボトル14をセットすると該給水ボトル14内の水が定置量15に一定量供給される。この水は給水ポンプ16により給水管7を介して製氷室8内の製氷室11に供給される。製氷室11に所定量された水は冷気グリート20から送られて来る冷気によって凍結され、駆動装置9の回転作用によって製氷室11がねじられて離水される。離水された水は貯氷槽13内に落して貯水される。離水作用の終わった製氷室11はもとの状態に戻る。以後、この作用を給水ボトル14内の水を使いきるまで繰り返される。

【0018】ここで製氷室中に冷凍室扉5が開閉された場合、製氷室11内の水が隣接氷室11から外に飛び出すことが考えられる。しかし、本実施例では、自動製氷機12を冷蔵室扉5内板のヒンジ側に取付け、冷凍室扉5の開閉時に製氷機が受けける慣性力を小さくするとともに、製氷室11の周囲および複数列の水受け21の間に設けた水飛び防止板10a、10bにより水飛びを防止している。すなわち、冷凍室扉5が開閉されたとき、図3に矢印23a、23bで示すように、製氷室11内の水は慣性により扉の動き24とは逆方向に飛ばれるが、このとき、水は水飛び防止板10a、10bにより飛ばれる方向が変更される。さらに水飛び防止板の上部先端部に設けたヒレ22a、22bにより製氷室11内に戻される。この結果、自動製氷機12を冷凍室扉5に設けても従来どおり製氷ができるとともに製氷関連の部品が全て冷凍室扉5、冷蔵室扉6に納められているので、冷凍室3、冷蔵室4を広く使うことが可能となる。

【0019】【実施例 2】図4は、本発明の他の実施例に係る自動製氷機付帯冷蔵庫の冷凍室扉内の給水管の状況を示す拡大断面図である。図中、図2と同一符号のものは先の実施例と同様であるから、その説明を省略する。図4に示す実施例では、給水管17を冷凍室扉5の断熱材25内に外板26側を沿い通わたるものである。給水管17内表面には給水管17に付着する

可能性がある。このようなとき、給水管17が冷蔵室扉5の断熱材2・5内でも、直度の低い冷蔵室3側にあると、冷蔵室3内の冷気によって冷やされ凍結し、さらに水滴が重なって水として成長すると給水管17が詰まってしまうことがある。図4における実施例は、この弊害を除去するようにしたものである。すなわち、給水管17が扉外板2・6に沿い置かれてあるので、給水管17は外気から熱を受け、常に0℃以上の温度に保つことが可能となる。

【0020】〔実施例3〕次に、図5は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。図中、図1と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。図5に示す実施例は、給水管17Aの位置を変えたものである。給水管17Aは、給水ポンプ16から冷蔵室4を通り、仕切り2を貫通し冷蔵室3を経て自動製氷機12に至るよう配管されている。しかして、給水管17Aにおける、給水ポンプ16から冷蔵室4側の給水管までの部分27と、冷蔵室3側の給水管から自動製氷機12までの部分28とも、柔軟性を有する材料または伸縮および回転自由にした構造にして、冷蔵室扉5、冷蔵室扉5の開閉を自在にしたものである。

【0021】〔実施例4〕図6は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。図中、図1と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。図6に示す実施例も、給水管17Bの位置を変えたものである。給水管17Bは、給水ポンプ16から冷蔵室4、冷蔵室扉3体1の新熱壁内、冷蔵室3を経て自動製氷機12に至るよう配管されている。しかしして、冷蔵室扉5、冷蔵室扉5の開閉を自在にするために、給水管17Bにおける、給水ポンプ16から冷蔵室4側の給水管までの部分27と、冷蔵室3側の給水管から自動製氷機12までの部分28とも、柔軟性を有する材料を使用しているのは図5の実施例と同様である。

【0022】〔実施例5〕次に、図7は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷室並びにその断面図である。図中、図1と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。図7に示す実施例は、冷気取り入れ口7の周囲に柔軟性のあるパッキン30を設けたものである。先の図1に示した実施例では、冷気ダクト20のダクト出口29と製氷室8Aの冷気取り入れ口7が冷蔵室扉5を閉じたときに対向するようにして冷気を冷気ダクト20から製氷室8Aへ導くようにしたものであるが、この場合ダクト出口29と冷気取り入れ口7との間には冷気の漏れる隙間があるため、冷気が十分に製氷室8へ入らず、製氷能力が落ちてしまうことがある。

【0023】図7に示す実施例におけるパッキン30は、ダクト出口29と冷気取り入れ口7との間に冷気の

漏れる隙間を高くようにして、製氷機8Aの製氷能力の低下を防いだものである。なお、パッキン30の取付け位置はダクト出口29の周囲でも差し支えない。

【0024】〔実施例6〕次に、図8は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷室並びにその要部断面図である。図中、図1と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。図8に示す実施例は、製氷室8Bの扉部に、冷気を製氷室11上面に導くダクトを設け、当該ダクトの内部に風路を案内する制御板を柔軟性を有する部材で形成したものである。

【0025】すなわち、製氷室8Bの冷気取り入れ口7にダクト上板31、ダクト中板32を設け、風路制御板35により製氷室8に流入した冷気を製氷室11上面に導き、製氷室11内の水を冷却製氷し、さらに、風路制御板35、ダクト中板32、ダクト下板34により冷気を製氷室8Bの冷気出口34から冷蔵室3内へ流れるようにしたるものである。この製氷室8B内のダクトにより、冷気を製氷室11へスムーズに流れるようにした結果、製氷室8より運び出しが行なうことが可能となる。

【0026】ここで、本実施例における風路制御板35は、シリコンゴムなどの柔軟な材料によって構成し、風路制御板35が製氷室11の回転を妨げないように配慮している。さらに、本実施例では、製氷室8B内に設けたダクト上板31、ダクト中板32、ダクト下板33、風路制御板35もまた水飛び防止の役割をする。

【0027】〔実施例7〕次に、図9は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。図中、図1と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。図9に示す実施例は、冷蔵室3内の冷却ダクト20Aの別の実施例である。冷却ダクト20Aは、冷蔵室3の側面に設け、かつ、この冷却ダクト20Aのダクト出口29Aを専用自在に構成して製氷室8に接続し、冷蔵室扉5の開閉を自在にしたもので、冷蔵室扉5が開けられたとき製氷室8内に外気が入り込むのを防止したものである。本実施例においても冷蔵室8内にダクトを設けるのは可能である。

【0028】〔実施例8〕次に、図10は、本発明の

さらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷室並びにその断面図である。図中、図3と同一符号のものは先の実施例と同等部であるから、その説明を省略する。先の図3に示した製氷室11では、水飛び防止板10a、10bの先端部のヒレ22a、22bの形状は、製氷室11の水受け21を底面方向に直線に対し傾角に設けられているものであるが、水受けの幅が広いときには、この角度は大きくなることが可能となる。

【0029】図10に示す製氷室11Aでは、製氷室11Aの外周に沿う上方に並び水飛び防止板10aのヒレ22aを逆L字形に、水受け21の間に並立して設け

た水飛び防止板10Bのヒレ22BをT字形に形成している。図10に示す製氷皿11Aによれば、先の図3に示した製氷皿11と同様の水飛び防止効果が期待できる。

【0030】〔実施例9〕また、図11は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿の断面図である。図中、図10と同一符号のものは先の実施例と同等部である。その説明を省略する。本実施例も図10の例と同様、水受けの幅が広いときのヒレ形状に関するものである。図11に示す製氷皿11Bでは、製氷皿11Bの外周に沿う上方に設けた水飛び防止板10Aのヒレ22Aを直角面に設けた角部、水受け21の間に直立して設けた水飛び防止板10Bのヒレ22BをT字形に形成している。

【0031】このようにヒレを直線にたいして角面にするのは、互いに向いあう水飛び防止板のヒレの間隔を大きくして、離水時に氷がヒレにひっかかることが無く離水格13に落ちるようにできる効果がある。また、これまでの実施例において、水飛び防止板10A(10A)は水飛び防止板10B(10B)よりも高さを低くしているが、これで互いに向ける水飛び防止板10A、10Bの間隔を大きく取るようにして、離水時の氷の落下を容易にするためである。

【0032】〔実施例10〕また、図12は、本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿の断面図である。図中、図11と同一符号のものは先の実施例と同等部である。図12に示す製氷皿11Cでは、水受け21の間に水飛び防止板を無くしたものである。図8に示した実施例のように、製氷皿8B内にダクトを設けることは、このダクトが製氷皿11内の水飛出を防ぐためである。

【0033】〔実施例11〕図13は、製氷皿の回転中心を説明する製氷皿の断面図である。図中、図3と同一符号のものは先の実施例と同等部である。その説明を省略する。図13において、36は、製氷皿8を後の離水時の製氷皿11の回転中心を示している。従来の製氷皿では水飛び防止板は取り付けられていなかったが、水飛び防止板10A、10Bを取り付けた製氷皿11では、水飛び防止板10A、10Bの部分が製氷皿11の上部にとびだし、従来の製氷皿の回転中心37では製氷皿の回転半径が大きくなる。この回転半径を小さくして製氷機ができるだけ小型化するためには、製氷皿11の回転中心の決定には水飛び防止板10A、10Bを考慮する必要がある。すなわち、水飛び防止板を取り付けたときの製氷皿回転中心36は、製氷皿11の水受け21の外端および水飛び防止板の先端を最小の半径の円弧内に含まれるような円弧の中心にとどまる。

【0034】なお、図示しないが、製氷皿の冷気取り入

れ口部にファンを取り付けることにより、製氷室内部への冷気の取り込みを向上させて製氷時間を短縮させることができ。また、貯水槽が冷凍室扉に取り付けられているので、冷凍室扉の貯水槽部に小窓を取り付けることにより、冷凍室の扉を開けること無く氷の取り出しが可能となる。

#### 【0035】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、本発明によれば、冷凍室扉の扉に製氷機、貯水槽を、冷蔵室扉の扉に給水ボトルを設置して、冷凍室、冷蔵室の扉の有効容積を広くして、冷蔵室扉を使いやすくするとともに、さらに製氷機の修理サービス時に扉部の扉頭を外すだけで良く、その作業時間を大幅に短縮しうる自動製氷機付き冷蔵庫を提供することができる。また、本発明によれば、扉開閉時の衝撃で製氷皿内の氷が外部に飛散するのを抑え、冷蔵庫としては特別の手段を施すことなく製氷機を扉に取り付け可能とした自動製氷機付き冷蔵庫を提供することができる。さらに、貯水槽の扉設置により製氷機の使い勝手も向上する。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。

【図2】冷蔵室扉のヒンジ部の断面図である。

【図3】図3は、本実施例における製氷皿の断面図である。

【図4】本発明の他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の冷凍室扉内の給水管の状況を示す拡大断面図である。

【図5】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。

【図6】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。

【図7】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿まわりの要部断面図である。

【図8】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿まわりの要部断面図である。

【図9】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の斜視図である。

【図10】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿の断面図である。

【図11】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿の断面図である。

【図12】本発明のさらに他の実施例に係る自動製氷機付き冷蔵庫の製氷皿の断面図である。

【図13】製氷皿の回転中心を説明する製氷皿の断面図である。

【図14】従来の自動製氷機付き冷蔵庫の断面図である。

#### 【符号の説明】

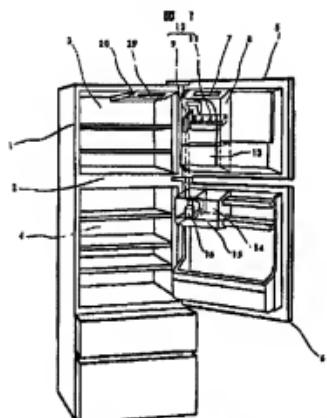
#### 3 冷凍室

II

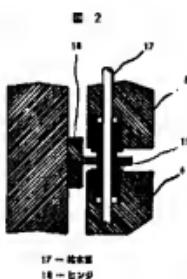
12

4 冷蔵室	17, 17A, 17B 給水管
5 冷蔵室扉	18 ヒンジ
6 冷凍室扉	20, 20A 冷気ダクト
7 冷凍室取り入れ口	21 水受け
8, 8A, 8B 製氷室	22a, 22b, 22A, 22B, 22A' ヒレ
9 駆動装置	29, 29A ダクト出口
10a, 10b, 10A, 10B, 10A' 水飛び防	30 バッキン
止板	31 ダクト上板
11, 11A, 11B, 11C 製氷皿	32 ダクト中板
12 自動製氷機	10 33 ダクト下板
13 防水被	35 風路制御板
14 給水ボトル	36 製氷皿回転中心
16 給水ポンプ	

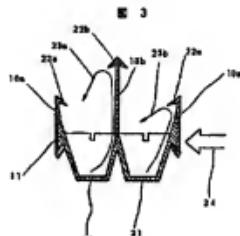
[図1]



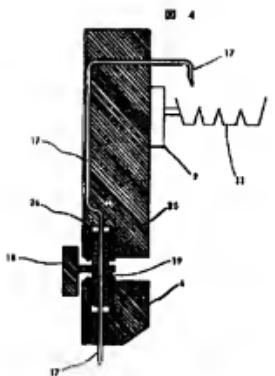
[図2]



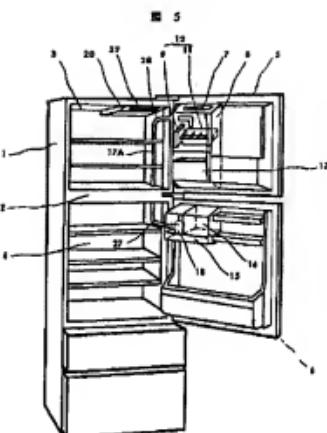
[図3]



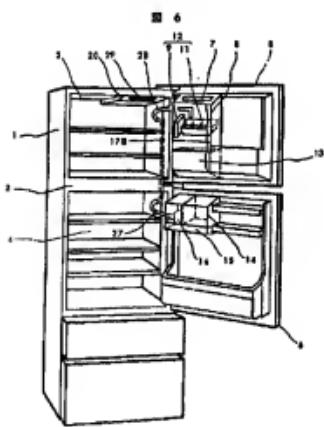
[圖 4]



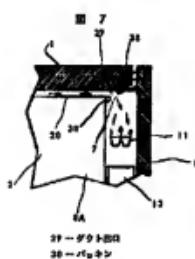
[图5]



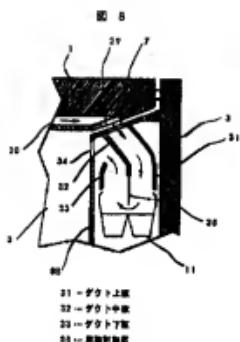
[图 6]



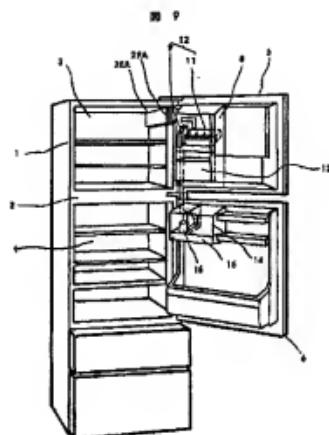
(27)



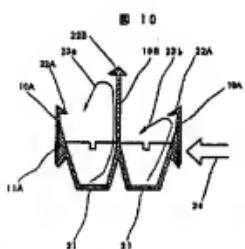
【図8】



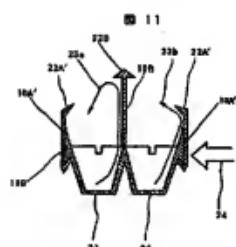
【図9】



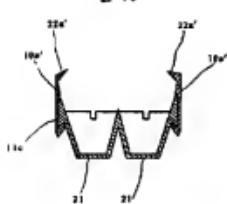
【図10】



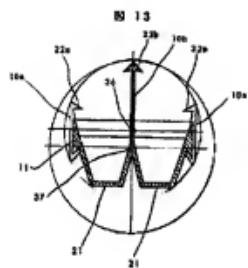
【図11】



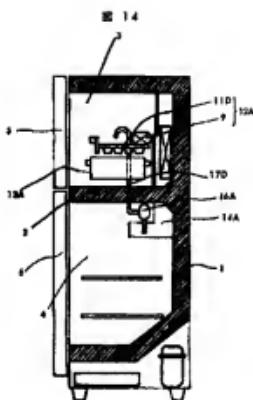
【図12】



【図13】



【図14】



フロントページの続き

(72)発明者 山崎 進  
福岡県下都賀郡大平町富田800番地 株式  
会社日立製作所福木工場内